平成12年を振り返る

中央材料室婦長　　鈴　木　多恵子

2000年問題対応を無事終えて，平成12年を迎え，あっという間に1年が過ぎた．看護部で9ヶ月間仕事をさせて頂き，10月の人事異動により，中央材料室へ配属となる．看護部では事務的な仕事が多く，はじめは戸惑うことも多かった．しかし、各部署の状況が把握でき，今まで自分が行ってきたことが他の部署ではこのように行っている，またはこのような工夫をしているのだということを、数多く看護部での仕事の中で学んだように思う．

中央材料室の人事について

4月から半日パート4名が、事務部へ異動となり、5月には看護補1名が退職され，欠員補充のために半日パート職員が採用になる．7月からは看護部から事務部へ物品センターが独立したことで，看護主任1名・看護婦1名・看護補5名体制となった．10月には，病院機構図が変更になり看護主任と交代に看護婦長が配置された．

年間目標について

年間目標は「他部門からの依頼に対し中央材料室内部の『ほう・れん・そう』を密にしよう」であり，小目標は「払い出しは快く対応しよう」とし，忙しい業務の中でも笑顔を絶やさないように，一人一人が接遇に気をつけて行ったと思う．直接患者さま及びご家族と接することはないが、医療に従事する者としてスムーズに患者さまへ、滅菌物が提供できるよう気を配っている．又、わからないことや疑問に思うことをその場で話し合い解決してきた．今後も継続していく必要がある．

会議及び勉強会について

1ヶ月に1回中央材料室の会議を開催している．10月からは，毎週月曜日に行っている連絡会議の内容も，資料の中に入れて説明している．あまり個人的に発言はされないが、これから活発な意見が出せるように会議のすすめ方も考えていかなければならない．勉強会は身近なことからと、オートクレーブの取り扱い方や、滅菌物の取り扱い方など資料を参考にして勉強会を行った．

動向について

中央材料室の最大の出来事は，ガス滅菌機が新しくなったことである．以前のガス滅菌機は容量が少なかったことや、2階西病棟の増床や透析室の増床に対して，滅菌物が多くなり1日2回稼働させていた．滅菌物品が多いため滅菌不良を起こす回数も頻回になったが、新しくなってからはこのようなことはすべて解消された．これらの事で，以前受け入れ困難だった検査科・薬剤部・臨床工学科の滅菌物も，容易に受けられスムーズに稼働している．

［滅菌稼働回数状況］

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
オートクレーブ1号機	96	103	117	98	127	114	101	125	114	103	118	108	1324
オートクレーブ1号機	86	93	107	95	89	107	104	116	98	98	103	112	1208

＊1号機2号機共に平均105回／月　　5･3回／日

［滅菌稼働回数状況］

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
ガス滅菌機	31	37	41	35	39	44	36	33	22	23	20	23	384

＊平均32回／月　　1・5回／日

上記のような数字が出たが、ガス滅菌機に関して1月から8月の稼働数は37回で、9月から12月は22回と手術室にステラッドが導入されたことで，ガス滅菌機稼働1日1回という本来の回数になったと言える.

今後に向けて

平成13年の年間目標を『安全・確実な滅菌物を迅速に各部署へ提供できる』とした．目標を達成できる為には,

1）自分で行ったことはきちんと報告する

2）お互いに声掛け合い各部署・他部門との連携を図る

3）疑問に思ったら相談する

4）意欲をもち前向きに仕事を進める

5）危険・事故のないよう落ち着いて行動する

これらのことを念頭におき，勉強会なども定例で開催できるようにしたい．病院の中では1番重要な部署であり，縁の下の力持ち的部署であるが、なかなか理解されていないことが多く今後，中央材料室ニュースなどの発刊を考え，皆さんへアピールし理解を深めていただく努力をしていきたいと思う.

薬剤部この一年

薬剤部長　　船　越　敏　雄

【スタッフ】

前年度と同じ薬剤師10名、薬剤補7名の総員17名でスタートしたが、この間薬剤補の退職により2名が新たに加わった。

【業務内容】

調剤・製剤・注射剤調剤・無菌製剤・薬剤管理指導業務・医薬品管理そして情報提供など、いままでの業務の継続と拡大した形で推移している。

4月から、神経精神科の院外処方せん発行がスタートした。これで9科が院外処方せんとなり、発行率約61.8％の数値となった（図1)。残るのは4科となり、全科院外処方せん発行も真近に迫ってきている。同時に懸案だった外来4科の薬剤情報提供業務も、医師・看護部・医事課の協力で始まり、患者さんの服薬の手助けになっている。

薬剤管理指導業務は、前年比109.3％の数値を確保したが、まだ対象患者さんの30％台しか実施できていないのが現状である　無菌製剤業務では、IVH調剤は1日約30件、注射剤混注は1日約10